



海から海を学ぶ 03 「そもそもカヌーとは？」

著者 内田 正洋

このコラムは、ウォーターセーフティガイドのカヌー編に対応しているのだけど、大体カヌーというのは、いったいどんな舟なんだ？という疑問のある人は、意外に多い。そこで、そもそも論を書いておこう。そもそもカヌーとは？である。

カヌーという言葉は、カノーやカノア（Canow、Canoa）から始まった。ヨーロッパから初めて大西洋を横断しカリブ海に到達したクリストファー・コロンブスの航海日誌にあったのがそのカノーやカノアと聞こえる発音の舟。15世紀の終わりから16世紀初頭にかけての航海だったが、当時のヨーロッパにはなかったカタチの舟で、大木を刳（く）り込んだいわゆる丸木舟（刳り舟ともいう）のことだ。現地のアラワク族の人たちがカノーやカノアと聞こえるように呼んでいたことに始まる。中には数10人規模で乗り込めるほどの大型カノーもあり、コロンブスはその発音のままヨーロッパに伝えた。

カノーを漕ぐ道具であるパドルもヨーロッパにはなかったため、そのカタチが似ているということで、当時のヨーロッパで使われていた鋤（すき）やシャベルを意味するラテン語のパデル（Padell）から転化したといわれる。つまりカヌーもそうだし、推進具であるパドルも中世以前のヨーロッパにはなかったものだった。

日本語ではパドルのことを「櫂（かい）」と呼ぶが、櫂は万葉集にも書かれており、櫂という言葉の歴史は少なくとも日本では8世紀の奈良時代まで遡れる。同時代の古事記や日本書紀には、カノーに近い発音の「軽野」や「枯野」と名付けられた舟まで登場する。そのため、アラワク語のカノーは日本の古代語とも共通することになる。当然ながらアラワク族は、ヨーロッパ人より前にアジアから来た人たちである。少数民族になったけど今も南米大陸に暮らしており、樹皮製のカノーを使っている。

そして、そのカノーがドイツ語や英語に転化していく際にカヌー（Kanu、Canoe）という表記になり発音も変化してきた。かつての日本語辞書のカヌーの項目には、カヌーは丸木舟のことでカノーともいう、と説明されていたほど。

現代のカヌーは、ほとんどがプラスチックで作られているため、英語圏では丸木舟を表すにはダグアウトカヌーDugout Canoeと呼んでいる。ダグアウトだけでも丸木舟を意味する。刳り込んだカヌーという意味だ。

カノーが古代日本語であるという可能性は、立証はされていないが可能性がないとは言えない。なにしろ日本最古の文献である古事記や日本書紀に出てくる舟の名であるから仮説としては成り立つだろう。東京商船大学時代の（現在は東京海洋大学）茂在寅男先生が唱えた仮説がそうだった。私は彼の説を継承しようと、この30年ほど様々な媒体にその仮説を寄稿してきた。生前の茂在先生に「継承します！」と一方的に宣言したことがあったりしたからである。

なにしろ、日本諸島（列島に連ならない島々もあるので諸島。ヤポネシアともいう）のカノーの歴史は、世界最古と推測されるカノー建造用石斧（1万2,000年前の丸ノミ型石斧）が出土しているほどだし、3~4万年ほど前に海を渡ってきた日本諸島人の祖先たちはカノーを漕いできたのでは？という実験航海も国立科学博物館とプロジェクトと一緒にやった（2019年）ので、私の中では仮説レベルじゃなくなっている。立証は無理であろうが、私にとっては信仰なのである。

ということで、今回はカヤックについてのそもそも論にするか。